学校再編により期待する教育効果

■小規模校における学校運営上の課題

単式学級・複式学級・教職員数の視点から，小規模校における一般的に想定される課題を参考として示しています。

小規模校の学校が抱える課題には，同じ学級数の学校であっても，地域や児童生徒の実態など，学校のおかれた状況により，教育活動の展開の可能性や児童生徒への影響は大きく異なってきます。

■単式学級（学級数が少ないこと）による主な課題

① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。

② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。

③ 習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。

④ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる。

⑤ クラス内で男女比の偏りが生じやすい。

⑥ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。

⑦ 班活動やグループ分けに制約が生じる。

⑧ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。

⑨ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる。

⑩ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく，授業展開に制約が生じる。

⑪ 教員と児童生徒との心理的距離が近くなりすぎる。　　など

■複式学級による主な課題

① 教員に特別な指導技術が求められる。

② 複数学年分や複教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため，教員の負担が大きい。

③ 単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがある。

④ 実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる。

⑤ 兄弟姉妹が同じ学級になり，指導上の制約を生ずる可能性がある。　　など

■教員数が少なくなることによる主な課題

① 経験年数，専門性，男女比等バランスのとれた教職員配置や指導の充実が困難となる。

② 教員個人の力量への依存度が高まり，教育活動が人事異動に過度に左右されたりする。

③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある。

④ グループ別指導，習熟度別指導，専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる。

⑤ 教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く，校内研修の時間が十分確保できない。

⑥ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる。

⑦ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく，指導技術の相互伝達がされにくい。

⑧ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。　　など

■学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

それぞれの学校事情によって異なりますが，児童生徒に与える影響は，次のようなものがあります。

① 集団の中で自己主張したり，他者を尊重する経験を積みにくく，社会性やコミュニケーション能力がつきにくい。

② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定しやすい。

③ 協働的な学びの実現が困難となる。

④ 教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある。

⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。

⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある。

⑦ 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来たす可能性がある。

⑧ 多様な物の見方や考え方，表現の仕方に触れることが難しい。

⑨ 多様な活躍の機会がなく，多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。　　など

■学校再編による教育効果

学校再編による実際の効果は，再編後の学校規模や通学条件，新たな学校におけるカリキュラムや指導方法等にもよりますが，過去の事例からは，次のような効果が報告されています。

■児童生徒への直接的効果

① 良い意味での競い合いが生まれ，向上心が高まった。

② 以前よりもたくましくなり，教師に対する依存心が減った。

③ 社会性やコミュニケーション能力が高まった。

④ 切磋琢磨する環境の中で学力や学習意欲が向上した。

⑤ 友人が増え，男女比の偏りが少なくなった。

⑥ 多様な意見に触れる機会が増えた。

⑦ 異年齢交流が増えた，集団遊びが成立するようになった，休憩時間や放課後での外遊びが増えた。

⑧ 学校が楽しいと答える子が増えた。

⑨ 進学に伴うギャップが緩和された。

⑩ 多様な進路が意識されるようになった。　　など

■指導体制や指導方法等に与えた効果

① 複式学級が解消された。

② クラス替えが可能となった。

③ より多くの教職員が多面的な観点で指導できるようになった。

④ 校内研修が活性化し，教職員間で協力して指導にあたる意識が高まった。

⑤ グループ学習や班活動が活性化した，授業で多様な意見を引き出せるようになった。

⑥ 音楽，体育等における集団で行う教育活動，運動会や学芸会，クラブ活動などが充実した。

⑦ 少人数指導や習熟度別指導などの多様な指導形態が可能となった。

⑧ 一定の児童生徒の確保により，特別支援学級が開設できた，特別支援教育の活動が充実した。

⑨ バランスの取れた教員配置が可能となった，免許外指導が解消又は減少した。

⑩ 施設設備が改善され教育活動が展開しやすくなった，教材教具が量的に充実した。

⑪ 校務の効率化が進んだ，教育予算の効果的活用が進んだ。

⑫ 保護者同志の交流が広がり，PTA 活動が活性化した。

⑬ 学校と地域との連携協働関係が強化された。　　など

■小規模校のメリット

一般に小規模校には下記のようなメリットが存在するといわれています。

① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき，補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。

② 意見や感想を発表できる機会が多くなる。

③ 様々な活動において，一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。

④ 複式学級においては，教師が複数の学年間を行き来する間，児童生徒が相互に学びあう活動を充実させることができる。

⑤ 運動場や体育館，特別教室などが余裕を持って使える。

⑥ 教材･教具などを一人ひとりに行き渡らせやすい。

⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい，体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。

⑧ 地域の協力が得られやすいため，郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。

⑨ 児童生徒の家庭の状況，地域の教育環境が把握しやすいため，保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。